

# 大 唐 中 興 頌

ダイトウ チュウコウ ショウ

唐・大曆六年  
(771年)

## 雄大な摩崖刻石⑩ 木雞室

木雞室  
伊藤 滋



「大唐中興頌」  
原石写真（巻頭部分）



図版② 「大唐中興頌」整拓本

図版③

なり左から右に書かれている。珍しい書き方である。元結が文章を作り、顔真卿が筆を執った。真卿六十三才の書である。安史の乱により唐王朝が衰退し、乱が終結し、唐が復興していく様子を述べる。名文であり、かつまた名筆であることから、古来より多くの人々に親しまれてきた。宋の黄庭堅、明の董其昌、清の何绍基など多くの名家が、この摩崖刻石を鑑賞している。筆力雄

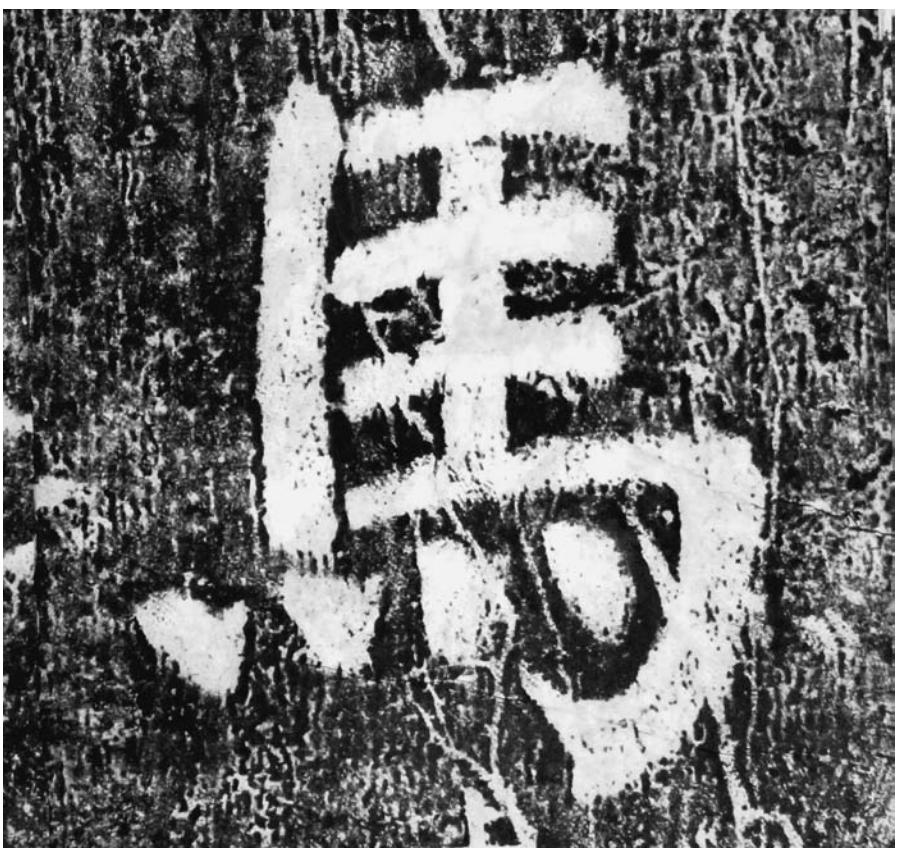
図版④ 原石 拓本



私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。  
伊藤 滋 メールアドレス  
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

湖南省祁陽県の湘江の河沿いに「浯溪碑林」がある。その崖壁に刻されている。縦、横ほぼ三メートル余り。二十一行、一行二十字、全体で三百字余りからなる。一字の大きさは十五センチほど。図版②の整拓本に見るように文章は、縦書きであるが、普通とは異

圖版①「小織」



# 書道芸術院

## 平成の群像 (2012)

石田春窓書展出品作「桜」(110×110cm)



### 「日々の研鑽が大切」



石 田 春 窓

平成二十三年七月文芸春秋画廊で「春窓書展」を開かせていただき生涯の思い出になりました。私には荷が重すぎて不安でしたが、一年間の余裕があつたことと、先生始め皆々様のご声援で何とか無事に終了させていただきました。よい機会を与えて下さった事に感謝しております。

恩地先生との出会いがあって、四十五年になります。先生は一人一人の自由な表現を尊重し、その人のよい個性をのばす方法で日頃指導をされます。

「書は線である。」「墨色の美を生み出すよう。」「身体で覚える。」「書く時の気持を大切に。」等々ご指導をいただいております。

昨年の文春展十三作中の大作には、春の訪れと共に人々の心がなごむ「桜」を選びました。美しい桜の花の風景をえがき、満開の桜になればという思いでしたが書作は楽しくも、また苦しいものです。起筆は静かに、二画目の木扁は重厚に、点はリズミカルに、長い線はゆるまないよう慎重に力強く、終筆は軽くさわやかにという様に頭ではそんな思いで書き始めましたが、筆をおろすと「マッタなし」の一瞬です。

その文字にふさわしい表現が出来るように日頃の勉強が大切だと思っております。

この先は限られた時間を大切に生き、元気で書きたいと願っています。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 創立65周年記念書道芸術院役員作品巡回展 岡山・高知で盛会に

選考するハピニング企画も行われ、夕刻開催の祝賀懇親会席上にて表彰もなぎやかに行われた。今後6月九州大分へ巡回していく予定。各地での開催にご支援ご協力をお願いしたい。

3月仙台で開催した東日本展に併催された「創立65周年記念書道芸術院役員作品巡回展」は、4月3日～8日まで岡山市の天神山文化プラザで、山陽支局管内の会員作品展も併催されて充実した展観となった。7日には院より恩地春洋会長、香川倫子、小伏竹村名誉顧問、辻元大雲理事長、大野祥雲常務理事はじめ多くの関係者、地元ご来賓にもお出でいただき作品解説会を開催、恩地会長による歴代会長作品、辻元大雲による巡回展作品および地元会員作品などについて解説を行った。

夕刻からは会場を市内のホテルに移し祝賀懇親会がにぎやかに行われ、盛会であった。

4月17日～22日には高知市文化プラザかるばーとを会場として四国支局展も併催して開催され、地元の会員は6×8尺などの大作を多くの方が出品され圧巻であった。21日には会場内で恩地春洋会長と辻元大雲が岡山と同じく作品解説、また地元出品作品より「恩地春洋の目」「辻元大雲の目」として各5点を審査会員候補以下の作品より



高知展会場にて席上揮毫の飯高和子担当理事

## パリ「現代の書代表作家展」再訪

3月のオープニングの訪問に続き4月10日より16日まで、書道芸術院訪仏団（團長 辻元大雲）12名十添乗員がギメ東洋美術館でのワークショップ、森内のアクリマタシオン公園で開催中のルイ・ヴィトン財団主催「ジャパンステージにて書のデモンストレーション」を行った。団員の前田龍雲、下谷洋子、



ギメ美術館でのワークショップ よくできました！

独立書人団の山中翠谷各氏と辻元大雲が6×12尺の大作を揮毫、大いに喝采を浴びた。その後飛び入り参加のワーキショップ、色紙大の用紙に即席お習字教室を行った。子供たちに大人も交じって大変な賑わいであった。

13日、14日はギメ東洋美術館内の特設会場にて午前ワークショップ、午後席上揮毫を下谷洋子と辻元大雲が担当、真下京子さんにもお手伝いいただき、書の歴史や文字についての解説も行い参加の皆さん興味深く質問もとびかいだ変な反響を呼んだ。

他の団員にはなるべく観光していたが、慌ただしくも充実の6日間であった。

## 東京都美術館リニューアルオープン

平成22・23年度2年間改装のため閉鎖中であった東京都美術館が4月1日よりリニューアルオープンした。4月16日関係者集い完成式典が行われた。

館内の主な改装点はパリアフリーのためエスカレーター設置、事務階にエレベーター乗降口設置、展示会場の主要構造は変わらないが、床は柔らかい絨毯、壁面は新しく10cm間隔の穴あきボード、移動壁面は規定のポイントしか止められなくなった。

正面入り口は広々としたミュージアムショップが開店、レストランのほかコーヒーラウンジなども設けられた。

日本書道連盟、日中文化交流協会、中国書法家協会などが主催して、日中各40名による書法交流展が開催された。

4月4日～20日、東京虎の門の東京中國文化センターを皮切りに、5月1日～24日、新潟県民会館。その後6月に北京、中国国家博物館で開催される。本院より辻元大雲出品。

4月3日内覧会開催。中国より代表団一行8名が来日（何奇耶中書協副主席、趙長青中書協駐会副主席ほか）友好交流を盛り上げた。

(おわびと訂正——先月号で掲載ミスがありましたので、この場をお借りしておわびと訂正をさせていただきます。編集部)

## 前衛書 (二) 津田海仙

## 現代詩文書 (一)

### 温故知新 (好古)

作品展を観て、どれも同じような雰囲気を持った

作品だと思われた経験がありませんか。構成や線質に、地域や団体の特質があるからだと思います。私が最初に教わったことは、「紙が真っ黒になつてもいいから、筆を置いたら押し切れ」でした。教わった通りにやると紙は破れ、毛氈は黒だらけ、

惨憺たることになつっていました。同じ地域

で同じ師に教んでもれば、構成や線質が似

てくるのは当然のこと、「人の真似ごと」に過ぎない。しかし、この真似ごとが基礎

基本となり、古典の研究もそのために行うのである。師から古典から学び得たものを

土台にして、制作する。構成には、大きく

線構成と面構成に分けられる。作者によつて、どちらかを選択していくか様々だが、

両方追求する人もある。これは時代性が

関係しているのではないだろうか。近年

「余白の美」ということが盛んにいわれるようになつた。それに伴ない構成面で常に

斬新さを求める工夫と努力が大切であり、

時に地域性を失わないことである。その上

に自分らしさの独創作品開発の努力を積んでいくことだ。殊に書は線の芸術であり、

線の変化の追求を…。

## 21世紀の書

### —私の主張—



津田海仙書

### 齊藤理舟

## 現代詩文書 (二)

### 齊藤理舟

突然、編集部からこのコーナーへの寄稿の依頼を受け、非常に慌てました。私に何が書けるのか……

故種谷扇舟先生の下で、書に係りをもつて延50年近くになりますが、深い考えもなく入り込んだ世界で、何をやってきたのかを昔の作品の写真から思い出し、現在の考えはどうであるのか、改めて整理してみたいと思います。

現代詩文書へは、先生が漢字部から移籍した時に、一緒に移った様に思います。漢字と仮名を一つの作品に組み込む事の難しさを知りました。仮名が書けないので、謂ゆる連綿の美しい仮名の基本は、古典などで学んでいた訳ですが、詩文書で使われる一字一字独立した仮名は、今だに表情を表わせず苦労しているところです。初学者の常として、紙一杯に小字をギッシリ書く事から始めました。が、何か物足りない気持ちが常にありました。

写真は初学から数年経ち、中字位で作品を作っていた頃



第38回毎日書道展 種谷扇舟先生作

「書の基本は臨書である」と、書に係わる人であれば、誰でも肯定する理論です。私も初学の頃は、カリキュラムに従いいろいろな古典を勉強してきました。しかし年数も経ち、作品作りの方に時間を取られるようになると、臨書に当てる時間が少くなってしまいます。縮切までに何とか仕上げたいと思えば思う程、甘い線が出たり、落ちつきの無い字形になつたりして、結局時間と用具の浪費、気分の衰退を招くだけに終つてしまします。この様に焦りが出てきた時は、ほんの少しの時間でも、臨書の時間に当てるといつも思います。作品の基としたい古典を臨書するのが一般的でしうが、全く違うものを書いてみるのもよいと思つています。特長を擅もうとする思考回路、筆を持つ指の力の入れ方等、違えば違う程、本来求めていた方向が新鮮になり、心機一転で、本来の作品作りに臨むことが出来ると思います。

写真は、昨年の白扇書道会展に出品した「揚州出土簡牘」の一部の臨書です。木簡を大きく書いてみるのも気分がよいものです。



齐藤理舟臨

# 第65回記念書道芸術院展

〈続〉

など決定した。

○総務部  
今回も未表装搬入・審査のため、各種の作業が大変だったが、ベテラン委員の方々によって大過なく遂行された。

実行委員長

大野祥雲

3. 出品作品について  
役員、審査会員、審査会員候補、  
無鑑査、一般公募の全作品を未表

装とし、締切りを平成23年11月29日とする。その他サイズなどについての変更はなかった。

4. 一般公募の出品料についての変更  
もなかった。

5. 運営委員会  
運営委員長

理事長  
運営委員  
实行委員長

理事全員  
大野祥雲

辻元大雲  
小竹石雲

副实行委員長  
”

6. 実行委員会  
7. 事務局  
8. 部長

総務部長  
審査部長  
陳列部長

祝賀会部長  
福島李舟  
小浜大明

会計部長  
白石和楓

1. 会場  
東京セントラル美術館(5階)

ア. 書類搬入  
イ. 作品搬入  
ウ. 鑑別・審査

11月29日  
11月29日  
11月29日

12月10日  
12月10日  
12月10日

工. 審査

・特別賞選考(審査会員候補)

12月12日

12月11日

12月11日

B. 第65回記念書道芸術院中央展(本展)

1. 会期  
平成24年2月7日～12日

○運営委員会

第65回記念書道芸術院展 運営委員会

員会を、平成23年6月17日(金)文具

任問問、会長、理事長、常務理事、常任総務、総務、峰雲賞、大賞、準大賞、白雪紅梅賞、院賞、準特

番審査員並びに審査委員、事務局編成

選、峰雲賞候補、大賞・準大賞。  
白雪紅梅賞候補

4. 陳列  
2月6日

5. 搬出  
2月12日

○2月11日、午後、帝國ホテルにて、研究会、表彰式、祝賀懇親会

物故者慰靈祭などをを行う。

出品者は財団役員をはじめ上位入賞者として、以下地域出品者全員。

一般公募は優状以上。約2000点

実行委員長 東北総局長

嵯峨大拙  
実行委員会

平成24年2月22日～26日。奈良県文化会館にて開催。

出品者は財団役員をはじめ上位入賞者として、以下地域出品者全員。

一般公募は優状以上。約1000点

実行委員長 関西総局長

小林琴水  
実行委員会

D. 書道芸術院西日本展

平成24年2月22日～26日。奈良県文化会館にて開催。

出品者は財団役員をはじめ上位入賞者として、以下地域出品者全員。

○審査部  
副部長 江本興舟 小島孝予

12月10日(土)一般部公募と無鑑査作品についての鑑別・審査を行う。パートコード化も定着。審査・事務処理とともに順調に進められた。出品点数の多い漢字、現代詩文書部の委員の方々には事務処理などご苦労をお掛けした。

12月11日(日)審査会員候補に対する特別賞選考が、15名の選考委員によって行われた。各部より10%の枠で候補を選考し、更に1/2を全体選考対象として絞り、選考委員全員による投票によって、各部ごとの序列を決めた上で、漢字から前衛書部までの5部門トップ作を並べて最終投票。大賞には前衛書部宮城県の後藤歩さんが輝いた。更に準大賞5名、第65回記念賞5名、白雪紅梅賞10名の受賞作を決定した。

後日、準大賞漢字部 高知の尾崎仁

特集：第65回記念書道芸術院展



一般公募審查風景



## 審査会員候補審査風景

水さん、同じく群馬の高山千彩さん、現代詩文書部 岩手の小原華杏さん、同じく青森の佐々木蒼風さん、かな部福島の羽田招佳さん。記念賞漢字部 千葉の高橋潤さん、同じく大阪の土井琴翠さん、現代詩文書部 翠月さん、篆刻・刻字部 宮城の大沼樵峰さん、前衛書部 富山の塚本真由美さん。白雪紅梅賞漢字部 大阪の小林椿寿さん、現代詩文書部 宮城の熊谷青山さん。以上の方々は審査会員に昇格されました。ご活躍を祈ります。

12月12日（月）審査会員に対する峰雲賞選考が、8名の選考委員によつて行われた。

各部より20%の候補、更に1%に絞つて、全員投票の結果、漢字部 大阪の飯田春香さんが峰雲賞に輝いた。更に第65回記念賞に各部1名選ばれた。峰雲賞候補の作品から秋季展推薦作家46

名も選出された。  
○陳列部  
副部長 小浜大明  
上柳佳規 清水翠径  
中央展は東京セントラル美術館と銀座画廊美術館で開催。財団役員のほか上位入賞作品を中心に450点余を展示。漢字、仮名、現代詩文書、篆刻・刻字、前衛書の5部門のそれぞれのよさを活かす展示の工夫もあって好評であった。  
第65回記念書道芸術院展中央展では、物故された歴代会長をはじめ、ご逝去された本院審査会員の先生方の遺作を展示。中央展のほか関係地区でも展示いたします。

○ 部長 小浜大明  
副部長 上柳佳規  
陳列部 清水翠徑

○ 作品研究会  
　2月11日、帝国ホテル富士の間に於て、作品研究会を行った。運営委員長・辻元大雲の総合司会により、スライドを使い、特別賞選考委員の方々の作品に触れながら進められた。

○ 担当　辻元大雲

○ 表彰式・祝賀会  
　作品研究会に引き続き、同会場に於て、毎日書道会専務理事・糸賀靖夫氏に担当して、恩地春洋・辻元大雲記者会見を行った。65回展の概要報告、更に記念事業などについてお話をした。

○作品研究会

2月7日、報道関係20数社に対し、記者会見を行った。65回展の概要報告。更に記念事業などについてお話しした。

担当 恩地春洋 辻元大雲

下谷洋子

○作品研究会

2月11日、帝国ホテル富士の間に於て、作品研究会を行った。運営委員長・辻元大雲の総合司会により、スライドを使い、特別賞選考委員の方々の作品に触れながら進められた。

○表彰式・祝賀会

2月11日、帝国ホテル富士の間に於て、作品研究会を行った。運営委員長・辻元大雲の総合司会により、スライドを使い、特別賞選考委員の方々の作品に触れながら進められた。

○表彰式・祝賀会 担当 辻元大雲

作品研究会に引き続き、同会場に於て、毎日書道会専務理事・糸賀靖夫氏による祝賀式が行われた。



## 謝辞を述べる大賞受賞者の後藤歩さん



### 峰雲賞を授与される飯田春香さん

をお迎えして表彰式を行った。峰雲賞以下の各賞が、本会財団理事によつて授与された。糸賀氏には毎日賞の授与と共に激励のご祝辞をいただいた。

係の誘導の手際よさもあって極めてスムーズに進行。受賞者を代表して、大賞受賞の前衛書部・後藤歩さんより謝辞があった。

祝賀懇親会は、帝國ホテル孔雀の間を会場として行った。毎日新聞社、毎日書道会、全日本書道連盟代表、報道各社の皆様をお招きし、総勢550名余の方々のご出席をいただき、大野祥雲常務理事の開会。恩地春洋会長、辻元大雲理事長の主催者あいさつ。続いて毎日新聞社常務取締役・當田照雄様、書道評論家・田宮文平様よりご祝辞をいたしました。乾杯は辻元大雲常務理事長・石飛博光様のご発声で開宴。

恒例の入賞者紹介に移り、峰雲賞受賞の飯田春香さん、大賞の後藤歩さん以下順次壇上で紹介。よろこびの声をお聴きした。

本年度、総局支局で功労者表彰を受けられた方々の紹介もあり、拍手で祝福した。

閉会は小竹石雲常務理事により宴を開じた。



祝賀会（帝国ホテル）

## 第65回記念 書道芸術院展西日本展

実行委員長（関西総局長）

小林琴水

○会計部  
部長 石井明子  
副部長 麻生峰扇（表彰式担当）  
奥田瑞舟（祝賀会担当）

院の台所を預かる会計部は全ての部署との連携を保ち、陰の支えとしてご尽力。膨大な予算を緻密な計算により誤りなく処理していただいた。感謝申し上げたい。

○運営事務局  
副部長 東福青篁

本展運営の全てに関わり、膨大な事務作業をコンピューターを駆使。事務処理担当のリンクス社との連携を密にして行う。各部の当番審査員並びに委員の人数割出しに始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録作成、作品配置、祝賀会座席配置など、総務・審査・陳列・祝賀会・会計とあらゆる部門の事務処理に関わっていただいた。

事務局長 千葉蒼玄  
事務局次長 三浦鄭街

品を主に解説いただき、西日本展の場を締めてくださいました。

祝賀会終了後三時より展示会場で作品解説が行われ辻元大雲、大野祥雲、下谷洋子先生に役員作品、上位入賞作



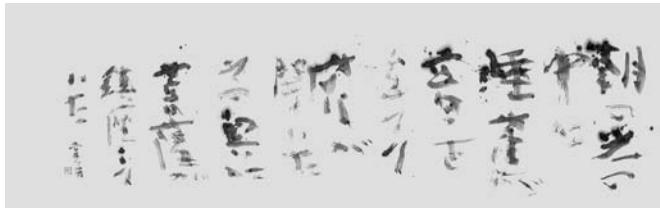
顕彰式の様子



会場で作品研究会

# 評論家の眼

上村棠芳

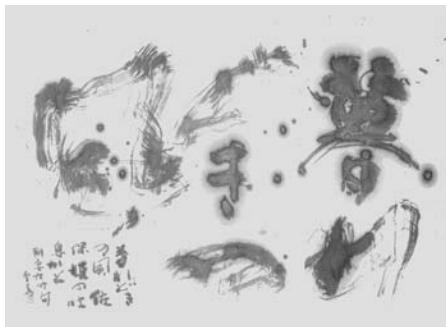


現代詩文書部

## 麻生泰久 の眼

- 解放した筆法を駆使して独自の情感を表出した。詩文書の異色作。

青木雪華



現代詩文書部

- 鮮やかなる抒情表現。用筆の巧妙さと相俟って佳趣溢れる作とした。

前衛書部

千葉蒼玄



- 3・11の悪夢を見るが如きドス黒い波。墨溜りに作者の哀感が凝縮されて心を打つ。

爽やかなる墨法。運筆の妙味。誠に完成度の高い作である。人の心を捉えて離さぬ魅力横溢。



漢字部 飯田春香

- 拡散と集約の手法を兼ね合わせ、巧みに構成。緊張感高き作とした。



漢字部 小浜大明

現代詩文書部



前衛書部

佐久間ふく子

山口仙草

- ・ダイナミックに舞い呼吸しながら律動する。「命」と「い」「の」。「ち」。字画がひそかに通底しつつ融和する様相が魅力的。



・木葉の舞い散るような幻想的風情を軽快な筆致に託して表現。  
語調の強弱が全体に加味され展開にも妙。

現代詩文書部

## 笠嶋忠幸 の眼

- ・漢字古典の基本的な構成を詩文書へと巧みにいかし、伸び伸びとそしてリズミカルに展開。重さを感じさせない豊かな変化が爽快。



## 桐山正寿の眼

鈴木智翠

白石和楓



現代詩文書部

- ・旅先でのホッとした思いが伝わってくる。一文字一文字の確かな骨格。悠然とした運筆が太古への浪漫路へと誘ってくれる。

前衛書部

真下京子



漢字部

最首翠風

- ・文学上の桜のさまざまなイメージが書人の頭の中を駆け巡ったのだろうか。対比の効果を最大限に活用し、多彩な線を繰り出し、豊かな情趣を定着させてている。



- ・地軸を連想させるような縦に突き刺さる線。散りばめられた細かな鉄片が離合集散する。静ひつだけれど、知的な妄想が激しくかきたてられる表現。

## 役員作品巡回展

併催 東日本展

会期 平成24年3月24日(土)～28日(水)  
会場 せんだいメディアテーク

実行委員長（東北総局長）

嵯 峨 大 拙

3月末、春とは言えまだ冷たい風、時には小雪がちらつく、杜の都、仙台の地、まだまだ大震災、大津波の傷あとが癒えぬ東日本太平洋沿岸部、そして今も続く余震、世界各国での大地震、心が折れそうな気持ちの中で今、ベンを取っております。役員巡回展、歴代会長の作品、東日本の書道芸術院に連なる出品された作品、そして学生優秀作総数2120点、浜田堂光陳列部長の綿密な計画と有隣堂表具屋さんはじめ宮城県内の表具屋さん、そして東北総局の力を結集し二日に渡り搬入陳列作業を取り行ないました。いよいよ三日目開場式をむかえ主催者として辻元大雲理事長の挨拶、実行委員長として私が無事開催にこぎつけた経過と御礼の言葉を、そして毎日新聞三岡昭博支局長から祝辞をいただきました。

又県芸術協会役員の先生、各書道団体

会場風景



役員の先生方にも御臨席を賜りました。オープニングテーブルカットの後、辻元理事長の言葉をかみしめるように歴代会長の作品を解説していただき、続いて役員巡回展の作品、一人一人、丁寧に説明をいただき観覧者の方々は感心していた表情でした。  
翌二五日は勝山館に於いて祝賀懇親会、当初の予定を大幅に上回り招待者を含め三八〇名ほどの宴となつた。

最終日午後一時半集合、いよいよ最後の搬出作業に入つたが予想以上に時間がかかり、表具屋さん、会員のボランティアにより午後五時過ぎに無事終了しました。東北総局の結束の賜物と心より感謝と御礼を申し上げます。

祝宴席上にて、拙書燈社（百瀬大蕉理事長）の皆さんより寄せられた、支援の書道用具・書籍が被災会員に贈られた。改めて深く感謝申し上げたい。

辻元大雲理事長、そしてわたくし嵯峨大拙が実行委員長として挨拶を申し上げた。次に祝辞を三岡昭博毎日新聞仙台支局長より賜り、お二人め山崎晃秋

宮城県芸術協会参事より大澤雅休先生、宮城野書人会創設者で書道芸術院会長を勤められた加藤翠柳先生と多くの関わりを持ち、書道芸術院展に出品した経験の話、震災直後、避難所を回り最も被害の大きかった地区へ行き、そこに書かれた言葉と対峙し書家として、自分は何を伝えてきたのか改めて考えざるを得なかった。マジックで太く大きく書かれた被災者の叫び、被災地に住んでいた人でなければ出てこないことはないかと切々とおはなしをいただいた。書家として心にしみるお言葉であった。

来賓紹介、宴は毎日書道展審査会員高橋孤舟先生ではじまつた。会員と門下の尺八による余興、そして記念展入賞者紹介と進み大盛会のうちに浜田堂光副実行委員長の閉会のことばでしめくくつた。



被災者に書道用具などを贈呈



嵯峨大拙実行委員長の挨拶

# 書道芸術院創立65周年記念

## 役員作品巡回展

併催 山陽支局展

会期 平成24年4月3日(火)～8日(日)  
会場 岡山県天神山文化プラザ

実行委員長（山陽支局長）

小 竹 石 雲

桜花咲きはじめた岡山の地で、東北

総局に続き二番目の開催となりました。  
歴代会長作品、巡回作品、地元（山口、  
広島、岡山）作品約200点に、学生展の  
A賞と地元特別賞約200点を加えて展示

しました。

折角の今回展を機に、本院を岡山の  
地の方々に知つていただすべくPRに  
重点をおいた結果、毎日新聞、山陽新  
聞、地元ケーブルテレビ外多くのメディア  
で紹介されました。また県内の各派  
の結集した岡山県書道連盟の役員の先  
生方も多数お見え下さいました。本部  
から用意されたDVDの放映や60周年  
記念誌などを見ていただくことで本院  
をいくらか理解して下さったように思  
いました。

7日に辻元大雲理事長の作品解説会  
を行ないました。恩地春洋会長も参加  
して下さいまして、歴代会長の貴重な  
会員一同尚一層の奮起を誓いあいま  
した。

同日17時より実行委員長の開会宣言  
た。



辻元理事長による作品解説会



祝賀懇親会での恩地会長のごあいさつ



学童による席上揮毫

で祝賀懇親会が開かれました。恩地会長から山陽支局の功労者であった山田魯江先生、三宅素峰先生のお話、辻元理事長からは、院の記念事業の主旨説明など、主催者の挨拶がありました。多數のご来賓の方々より代表で、岡山県書道連盟会長、毎日新聞岡山支局長、山陽新聞社編集局文化部長より温かいご祝辞を賜わりました。そして高谷岡山市長、飯高和子先生などから頂いたお祝いのメッセージが披露され、豊田ひとみ岡山県環境文化部長の乾杯のご発声で祝宴に入りました。本展の入賞者の顕彰を行ない、お互いの健闘を称えあい宴も盛りあがり、最後に山田梓江実行副委員長に締めていただき盛会裡に祝賀懇親会が終了しました。院より、香川倫子、小伏竹村、小林琴水、

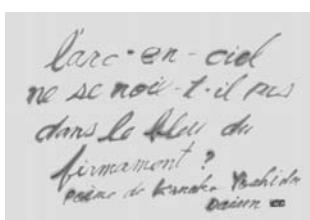
名越蒼竹、牧泰濤の先生方が応援に駆けつけて下さいました。感謝の気持ちで一杯です。

翌日は、学童による席上揮毫会を催しました。昨年の学生展A賞受賞者より代表の方10名にお願いしました。各自のプロフィール紹介用原稿を依頼し、気持ちはこもったすばらしい揮毫たところ、すばらしい字で書写に對する熱意を感じさせる内容のものばかりでしたので、コピーし参觀者にも配布し、気持ちはこもったすばらしい揮毫作品共々にエールが送られ、将来の芸術院を担う人が出てくれることを信じています。

約三ヶ月の準備を要しましたが多くの方々のご支援、ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

# 現代日本の書・代表作家パリ展

— 2012. 3. 14 ~ 5. 14 於：ギメ東洋美術館 —



辻元 大雲



恩地 春洋



下谷 洋子

## 現代日本の書代表作家パリ展

フランス国立ギメ東洋美術館は同国の実業家エミール・ギメが収集したコレクションをもとに設立され、ルーブル美術館の東洋部門の収蔵品が加わり、多彩で充実した東洋美術のコレクションを誇っている。この東洋美術の殿堂で、2か月にもわたって「現代の書」が展示されるという文化的意義の大きさは計り知れない。一般公開に先立つて開かれた内覧会には多数の報道関係者、日本からの訪仏団約100名も参加した。同展の監修者、島谷弘幸・東京国立博物館副館長が日本の書について分かりやすく概説。実行委員長を務めた辻元大雲が41人の出品作について漢字、かな、近代詩文書、大字書、篆刻、刻字、前衛書と分野別にまとめられた展示に合わせ解説した。

開幕式では宮崎紫光、石飛博光両先生の席上揮毫のあと、毎日新聞社朝比奈豊社長、ギメ美術館ベルノン館長などの挨拶、午後からは本院の下谷洋子、千葉蒼玄、前田龍雲ほかの訪仏団代表が揮毫。翌4月14日開会初日には特設会場にて刻字の安藤豊郎氏によるワーキショップ、辻元大雲、永守蒼穹、山中翠谷各氏の席上揮毫が開催され多くの参加者で賑わった。この催しは17日まで連日行われ、更に4月10日から16日まで訪仏した書道芸術院訪仏団（辻元大雲団長、団員13名）によつてもワーキショップ、席上揮毫などをつけて好評を博した。5月14日の会期終了時も3日間行われる予定である。

来年10月には同美術館にて「毎日書

道展65回記念 現代日本の書代表作家100人展」が開催されることになつていい。さらに今後も継続して書芸術をパリで展開する構想をギメ美術館側では提案しており、正に本格的な書を通じての文化交流事業となる見込みである。



恩地春洋会長作品をご覧になる 近藤文化庁長官

\* 出品者 (敬称略)  
◇ 物故作家 飯島春敬、宇野雪村、金子鷗亭、手島右卿、松井如流  
◇ 稲村雲洞、恩地春洋、中野北溟、大井錦亭、小山やす子、山崎曉子、米本一幸、内山玲子、飯島春美、石飛博光、貞政少登、關正人、関口春芳、田岡正堂、田村空谷、辻元大雲、仲川恭司、中原茅秋、林竹聲、船本芳雲、宮崎紫光、神郡愛竹、渡辺墨仙、薄田東仙、鬼頭墨峻、中村雲龍、永守蒼穹、室井玄聰、柳碧蘿、赤平泰、川處、安藤豊郎、石原太流、遠藤彌、下谷洋子、柳澤朱雀、山中翠谷

# 「いのち」

三 沢 明 扇

(漢字部・審査会員)

「徒然なるまことに日暮らし、硯に向かひて心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書きつくれば…」

審査員にさせて頂いたからといって日頃文章などあまり書く機会の無い私にとって、「徒然なるまことに…硯に向かひて」みたところで、頭に浮かんでもくるのは孫の顔。一番上に小学校一年生の男の子が居ります。この男の子がしばらく前から「書道」をはじりました。娘夫婦の考え方、「小学校低学年くらいまで、あまり一つのことを拘らず、いろんなことをのびのびと経験した上で自分自身の好きなことを選択してゆけばよい。」というもので、今のところ書道についても定期的に練習しているわけではありません。ただ、一般のお子さんよりも、家庭環境によって「書」に触れる機会が多いという程度です。半紙でひらがなや学校で習った漢字を書いてみたり、地域の書初め展に出品したり、時には大きな字(半切や全紙に一文字・二文字など)を書

いてみたり、といった感じです。私の娘たちが小学生の頃には、通常は「半紙」に練習し、月例の課題をこなして、「半切」を書くことなどは書初めなど年に何回か、「全紙」にいたっては書いたことが無い、といった時代でした。しかし、今はある程度環境や機会に恵まれれば「全紙」を書く経験ができるような時代になりました。

て、長い線を引くときは紙の上を握り足しながら全身で思い切り表現していたのかもしれません、まさに全紙いっぱいに足も腰も腕もフルに使って、長い線を引くときは紙の上を握り足しながら全身で思い切り表現しているようです。「楽しかった」という感想は本心から感じたことを一年生の数少ない言葉で精一杯表現したものだつたのでしょう。以降、半紙を書いている時にも体で書けてい



孫の揮毫風景

る姿が見受けられます。以前にはなかなか経験できなかった、幼い子供でも初心者のうちに大きな筆で、大きな「書」を書く(描く)経験を得られることに

あります。「体で書く」ということをおりません。「体で書く」ということを自然に「体で覚えた」のです。コンピュータが発達し、整った字や変わった字もキーボードをたたけば誰でも同じように書ける便利な時代。しかし、その中にあって「書」という自らの手でしか書けない「オリジナル作品」を創造してゆく、ということが徐々に見直され、新たに参加する人がでてきているのではないかと感じております。今までの「書」とは変わった形態で、私は「書道家」ですといってメディアで売れっ子になっている先生もいます。「書」と活字を融合させるといった試みなどもあるようです。その他いろいろな形が次から次へと出てきているようです。私自身その全てを理解し、肯定するということ是不可能かもしれません。しかし、新しいもの全てを否定するものではないと考えております。

孫に感じたことも含め、ゆっくりではありますが、書の時代も着実に前に進んでいると信じております。伝統も大切にし、古典を尊ぶ精神も伝えながら、より新しい「書道藝術」の分野を生み出していくような調和の取れた進化を望んでおります。

また、極々微力ではございますが、皆様とともに、後進の方々が自由に闊達とした進化を遂げていっていただけよう、私も努力してまいりたいと思います。



△原寸大△

## 〈解説〉

高貞碑の碑額は篆書体、本文は楷書体で一行に四十六文字ずつ二十四行で書かれている。張猛龍碑とともに北魏を代表する名碑である。両碑を見比べると、張猛龍碑は文字に大小・広狭

があり表現がのびやかであるのに対し、高貞碑は整然として様を正すように行儀がよい。両者とも技巧派の一級品である。

(編集部)

英華於王・許。龍馬流車。陸離於陰。鄧而不下以富

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみも可)

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判  
左の法帖の中から  
何文字臨書してもよい。  
(掲載部分以外は不可)

## かな研究部

升色紙（伝藤原行成筆）②

## 特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

II注II

- 升色紙は、左記の掲載写真を全臨する。（拡大臨書も可）

- 左記の原寸大で書く場合は、半紙もしくは半紙の大きさの

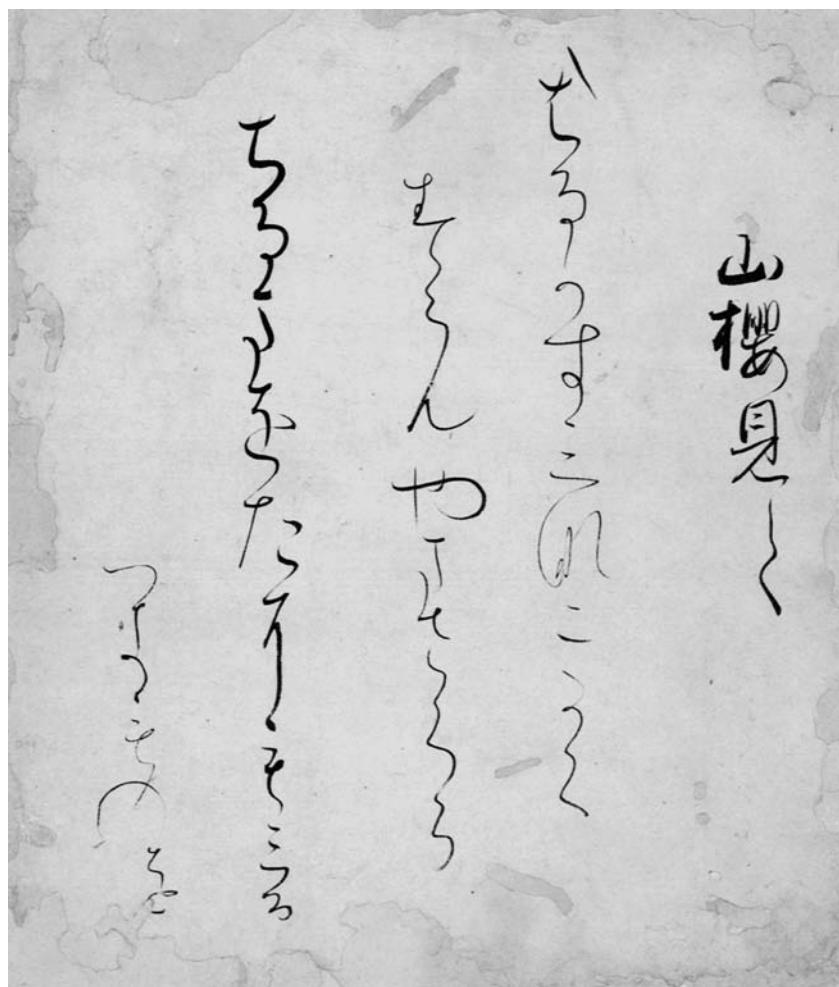
- 料紙に枠をとり、その中に書く。

- 落款を必ず入れる。署名もしくは〇〇臨、押印のみも可。

(落款の位置は、枠内でも枠外でもよい)

※落款を必ず入れる。署名、  
もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)

用紙  
・半紙普通判（料紙可）  
〈たて長に使用〉  
※別紙を裁断して貼付も可。  
・半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。



藤田美術館蔵

よみ

山桜見て

はるがすみなにかく

すらんやまざくら

ちるまをだにもみる

べきもの

解説

升色紙の特徴は、第一に巧妙な散らし書きにあり、第一は、強烈な濃淡と線の肥瘦で、接近した行や絡んだ文字に、大胆かつ繊細な線の変化が、墨の明暗と相まってしとやかで美しい趣を醸している。

字形は、懐が広く、豊かな安定感をもっている。線質も豊饒で、温かい情味があるが、鋭さはあまりない。きれいではあるが、情緒的で甘さが見られる。全体に漢字の練習からくる力が認められないで女性的であり、むしろ女性の手によるものという感じが強い。もとより、筆者が行成という伝えは疑わしく、行成より後の11世紀後半の書写と推定されている。

習い方解説 (二)

半田藤扇

枝影不動 (歐陽脩)  
(枝影動かず)  
木の梢の影は少しも動かない。

今回は、線の太・細とそこに躍動するリズムを取り入れ、紙面にくい込む様な運筆で書いてみました。

「枝」木へんの厚みを大切にしながらつくり(支)への流れに注意。

「影」たて長同士の造形のため文字の中の余白注意。

「不」他の文字よりやや小さめに左右にゆったりと。

「動」たてから切つてくる一画目の線と最後のぬき線に変化をつける。

全体的に、やや肉厚の線を心がけてみてはいかがでしょうか。

枝影不動 よみ (枝影動かず)

書体=自由



習い方解説(二)

小林琴水



光風動春  
(光風春を動かす。)  
雨後陽光を浴びた葉の上を渡  
る風が春めいている。

筆は少し硬めで短鋒を使用しまし  
た。  
「光」○ 広く

「風」虫を大きく

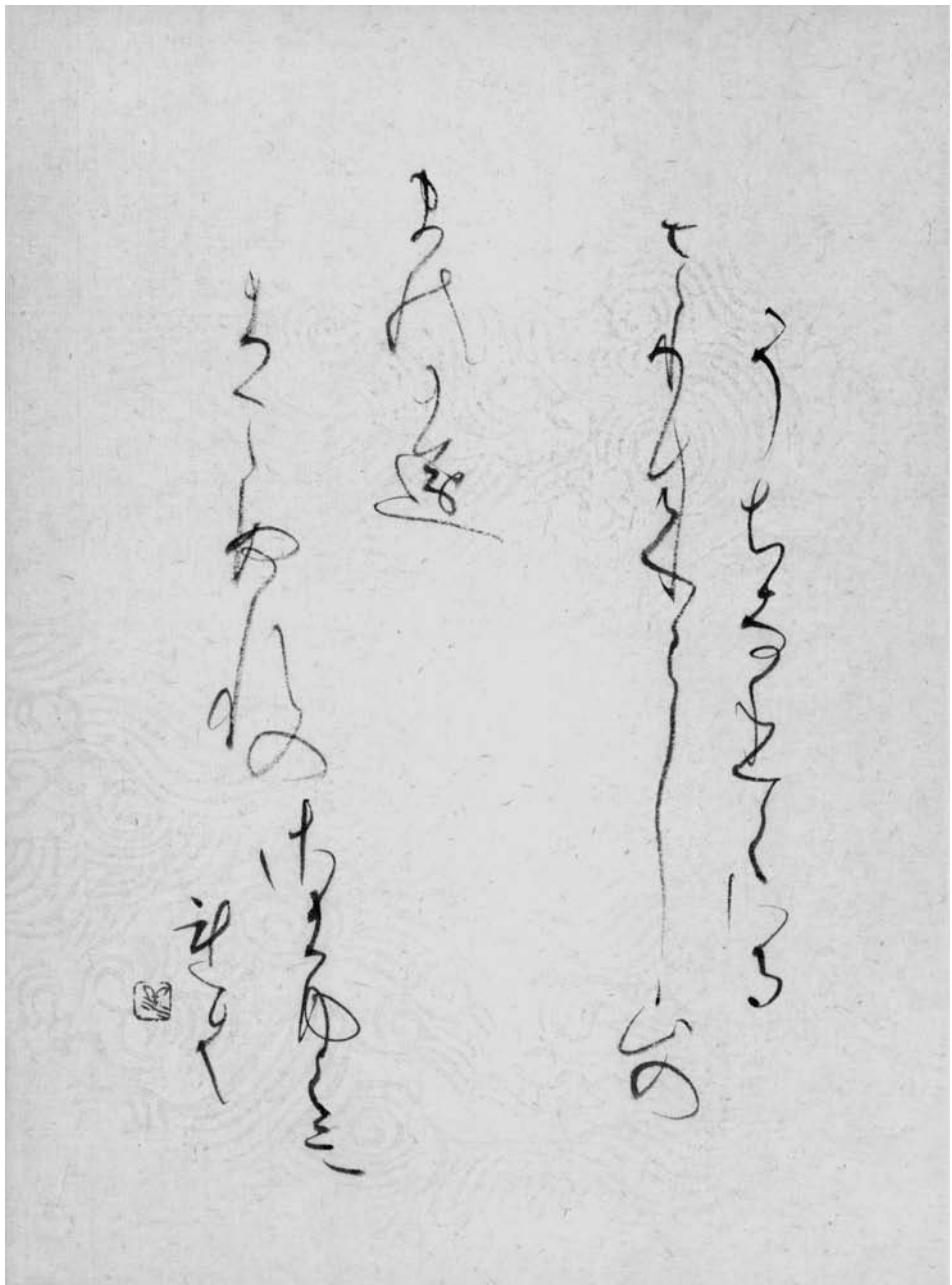
「動」横画の間隔をそろえる  
一画目は横にはらう

「春」横画の間隔に注意  
く

習い方解説(二)

下谷洋子

つむなびく春さりくらし山の際の  
遠き木末の咲き行く見れば  
(万葉集)



ある時聞かれました。歌の中の漢字と変体がなを、かなの人はどう区別しているのかと。大変難しい問題です。決まったルールがあるわけではなく、種々の解説書を読んでも触れていません。特に変体がなの春・川・遠・夜などは混同しやすいですね。私は、まちがいややすい変体がなは◎極力行書体は避ける◎漢字として読ませる場合は、前後の文字との関係で少し大きめに書く…など心掛けています。

かなは変体がなを使うことによって連绵しやすくなり、流れにも自然さが出て、単純なかなの表情を豊かにします。ただ、使い方を考えないと判読しにくくなるので注意して下さい。歌が優先するわけではありませんが、読み憎いことは避けるべきだと思います。

よみ方 うちな(奈)び(悲)く(久)は(八)るさり(利)来らし山のまの(能)

遠き(支)こぬれのさ(佐)き(支)ゆく(久)み(三)れ(運)ば(者)

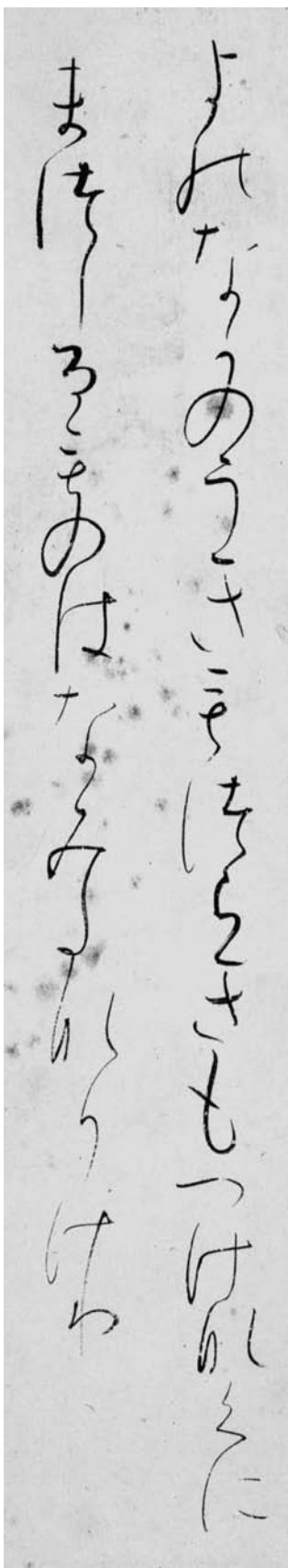
創作

かな規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 よの(能)なか(可)のうきも(毛)つ(徒)らきもつづな(那)く(久)に

まづ(徒)しるも(毛)のはなみだ(多)な(那)りけり(利)

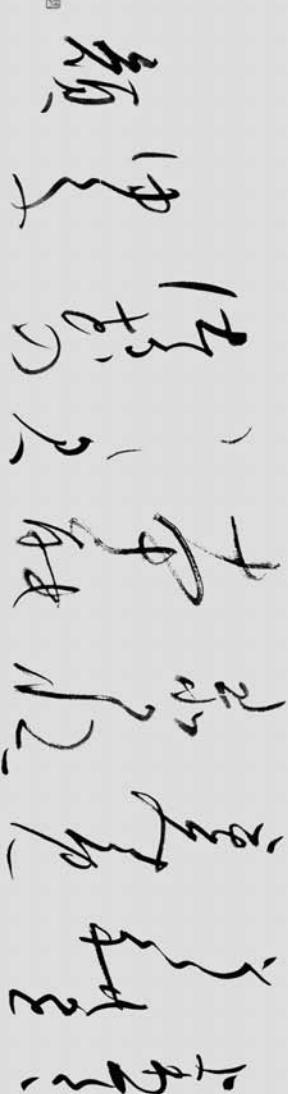
かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

和氣しげ代選書

### 習い方解説 (二)

和氣しげ代

先月と同じ源氏物語、夕顔の歌  
にほのぼの見つる花の夕顔(源氏物語)



よみ方 より(利)いこそ(曾)れ(礼)か(可)とも(毛)みめ(免)た(多)そ(所)か(可)れに(利)

ほ(本)の(能)へ見つ(徒)る花のゆふ顔

創作



出品券  
貼付位置

\*よじ形式に限る

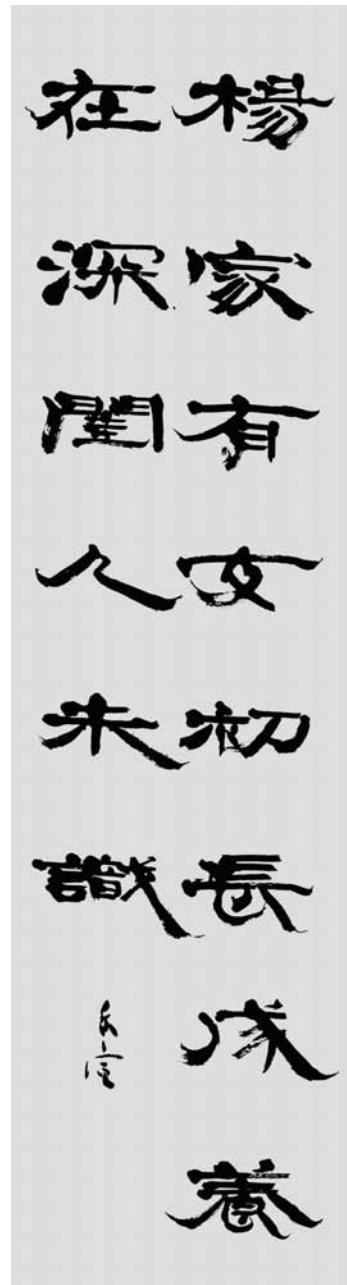
漢字条幅規定 初段以上 【六月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

西林乘宣選書

## 習い方解説 (二)

西林乘宣



(長恨歌・白居易)

書体=自由

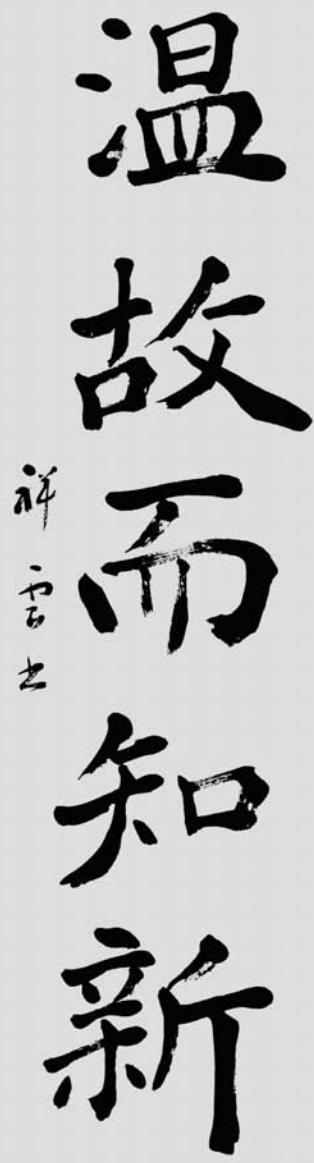
隸書です。これもまずは基本を古典(例・曹全碑)で勉強して下さい。隸書の用筆は逆入にして波磔、字形は平らにしてやや偏平。初めはどうしても右肩上がりになりがちなので、少し下がり気味に書くこと。それと初心の方は形にとらわれがちですが、線のボリュームが大事です。(大意—楊家に成人したばかりの娘がおったが、深窓に育てられたためか誰も知らないかった。)

漢字条幅規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

## 習い方解説 (二)

大野祥雲



以前に学んだこと(あるいは先人の学問や古典)をくり返し研究し、物的道理をたどって思考し、それを土台にして、新しい知識をみちびき出す。

よく曰にすることばです。書作品の制作についても、常にこうした理念のもとに、筆を持ちたいものです。この作、筆力と適当な白をかかえ込むように書きました。

(論語)

書体=自由

温故而知新  
(故きを温めて新しきを知る)

習い方解説 (二)

稻垣 小燕

鯉のぼり

いらかの波と雲の波

重なる波の中空を

たちばなかおる朝風に

高く泳ぐや 鯉のぼり

小燕書

書体=自由

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

田まぐるしい速さで変化する今日、  
便利さのみを追い求める日常の中で、  
生活の中から生まれた國民歌を大事に  
したいとの思いで、今回から親しみ深  
い小学唱歌を課題に選びました。  
口ずさみながら書いてみましょう。

“鯉のぼり” 作詞・作曲者不詳

- ・リズムに乗せて伸び伸びと大らか  
に書きましょう。
- ・簡単な行書を書くつもりで、気持  
ちをつづけましょう。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品  
各部総評

No. 611

身の身がちかく初音も

各部総評

漢字部 師範 林 玉華

大小潤滑の変化のバランスよく  
暢びやかな筆致が広がりを見せてい  
る。一本筆による破筆の効果も。

◎漢字部総評 大胆な表現作もあつ  
たが、多くは参考例風で、運筆のリズム不足が目立つた。自らの呼吸でしっかりした運筆を。(大雲評)



漢字条幅部 師範 田畠 明琴  
筆法が軽妙で、線の切れ味が良  
い。変化多彩な章法で、余白も美  
しく、爽快感があり、熟達の作。



◎漢字条幅部総評 辞書を手元に  
置き文字調べをしましょう。当用  
漢字と繁体字の混用は如何か。上・  
下級共に大事です。(萬城評)

かな条幅部 四段 山村 炎秀  
バランスのよいリズムで気持ち  
よく書かれた様子が好ましい。正  
確に手本を理解し掌中にした作品。  
◎かな条幅部総評 鶯や初は頻繁  
に書く漢字の草書ですが、曖昧な  
ものが多かった。変体がなも含め  
てまず源字の確認を。(洋子評)



前衛書部 特選 神沢 凌雲

直線的な鋭い線と動きのある曲  
線で、迫力ある構成となっており、  
雄大な世界を表現している。

◎前衛書部総評 書線の充実した  
作が多くなっており、更なる線質  
の追求を期待します。(仙草評)

現代詩文書部 特選 原田 寛

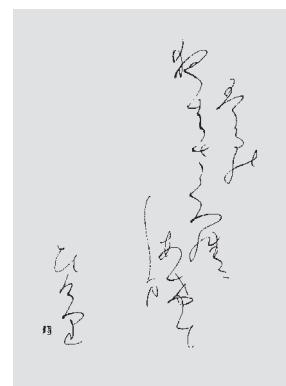
潤筆と渴筆、線の深さと空間美  
いずれも群を抜いている。三行目  
「る」は一考を要する。

◎現代詩文書部総評 線質を極め  
余白の美しさを追求することが望  
ましいが…まだ少ない。(素雪評)

かな部 師範 佐藤 詠子  
筆から学ぶ努力を! (明子評)

稍大ぶりな字を交じえての力強  
い連绵線に魅了される。密な箇所  
が重なく華となつた見事な作。

◎かな部総評 ミス少なく、明る  
い作が多かった。一部、暴走の線  
があり残念。かなの線の抑制を古



ペン字部 師範 沖 佐和子

氣字大にして終筆まで心が行屈  
いた温雅さが品格の高さを醸し出  
している。統一感溢れる安定な作  
字形が向上している。更に連綿の工  
夫と手紙として出し手の心が伝  
わるよう更にご精進を。(和楓評)

◎ペン字部総評 全体的に布置と  
字形が向上している。更に連綿の工  
夫と手紙として出し手の心が伝  
わるよう更にご精進を。(和楓評)

揮毫ご長男にはこのたゞ小学校  
にご入学のお心よりお祝い申し上  
げます。待望の入学ご両親様も  
どうんばかりお喜びでござりますよ  
う。入学式の晴天を念じつゝまずは  
お祝い申し上げます。(佐和子書)



鈴木翠夢書

◆紙面全体の変化を墨まだりで動きを表現され、一体の流れが美しく表れている。リズム感を感じる。（倫子評）

◆濃墨、柔毫筆で柔らかな潤渴の線を横展開で見せる。後半やや渴筆にさがり、落款もう一工夫。

(蒼玄評)

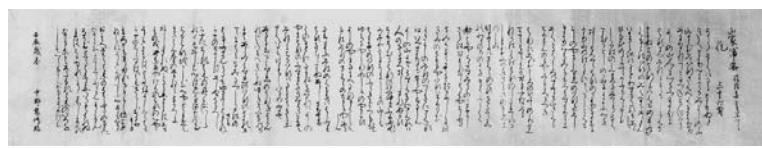
現代詩文書

木原尚子書



150×72cm

◆墨に心中を託して表現されたのか淀みのない線とためらいの動きの線が余白を生み出してゐる。(倫子評)



中野黎峰臨

35×135cm

臨書（うる） 中野黎峰

創作の部(47点)
漢字 — 9点
かな — 3点
現代 — 23点
篆刻 — 0点
前衛 — 12点
臨書の部(35点)
漢字 — 32点
かな — 3点

◆リズムよく最後まで一気に書き上げている。濃淡も出て紙面を明るくまとめた。名前が少し重い  
か。  
◆久しぶりにかな臨書作が取り上げられた。西行の筆力の強さとリズムをよくとらえている。  
(蒼玄評)

◆紙の美しさと墨の流れが一致して作品がまとまつていて、ゆったりとした心の美しさが感じられる。  
(大雲評)

(洋子評)

〈特選候補者〉  
（創作の部）  
「漢字」

月華 中塩 朱華  
秀水 坂井 初江  
**(臨書の部)**  
**「漢字」**

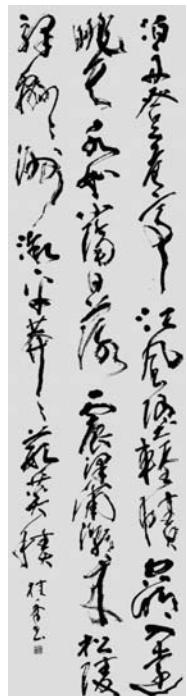
千葉 小林 咲舟  
大雲 奥田 嵩柏  
蒼原 熊谷 青山  
大雲 小川 白舟  
「かな」 佐藤 希雲

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

漢字  
(英峰)  
佐藤桂香

「高啓詩」



佐藤桂香書

現代詩文書

（もく）

西川藤象

70×136cm

詩集  
卷之三

◆筆先ぎの表現の変化のつけ方が巧み。全体に淀みのない動きを見せてくれていて歌を口ずさむ感じ。  
◆淡々と調和体風にまとめ、特に平がなが正当で美しい。後半やや墨量も少なく穏やかになりすぎたか。（洋子評）  
◆おだやかな筆致で、明るく爽やかにまとめた作。あまり強い表現ではないが心落ち着く雰囲気がよい。（大雲評）  
◆筆先を立てて紙面に深くくい込む線は見事。单々と書きすぎたせいか盛り上りの箇所がほし

(蒼玄評)

其一  
其二  
其三

176×54cm

◆三行書きの定形スタイルを難なくまとめ上げた。連続する造形をもう少し整理すると空間ができる。

(蒼玄評)

◆筆の廻転が巧みで線に細かな動きの表現が表現されている。その動きが細字多字数の作品が一体に。（論子評）

◆千葉県展版に三行で連綿の流れと潤渴の変化で見せる。大小の変化もバランスよくまとった作。(大雲評)

(洋子評) (大雲評)

か  
な  
(大雲) 神谷雲卿

(大雲) 神谷雲卿

◆最近からの表現力を身につけて  
向上中。地元静岡に伝わる万葉歌  
を爽やかに無理なく表現して妙。

◆三段構成は、各々の組合せに統一感が求められるが、品よく巧くまとめた。余白の取り方が紙面に現して妙。さう。

◆落ちついた作。流れの美しさがゆったりと表現されていて見ていて心のなごみを感じる。

◆三段に分けた構成で変化を出している。紙面に対し少し字形が大きいように思うが線の切れはよ

子謂子

(倫子評)

西川藤象書

漢字研究部  
(十七帖)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



奥川麗流

◎漢字研究部總評

漢字研究部 特選 奥川麗流  
十七帖の線の伸びやかさと骨力が見事に表現されている。どの点画を見てもゆるみがなく、形質ともに充実した臨書となつた。落款の印が下がりすぎたため、名前の左に押印すれば全体のバランスが向上したと思われる。

草書は究極のくずし書体であるため、ほんのわずかな違いで本来の文字とは異なる字に見えてしまう。臨書の前に字典によってその文字の標準的なくずし方を見て、拓本の傷や不鮮明な筆脈を確認し、実画と虚画の区別を意識しておくべきである。提出された作品の中に多く見られた誤字（くさい）文字は、「時」、「堂」「此」「畫」「皇」「以」「觀」。

よく分からぬ場合は、指導者に尋ね、不明な点を無くしてから筆を執りたいものです。



彩一悦由春桂  
雨葉康香奈香

百三桂  
千子雲秀重貞浩

菜悦龍  
かつ円子  
翠依美  
みど美  
由知子  
未惠秀

選評 田 村 澄 子

今月のホープ作品



堀切幸雲

◎かな研究部総評

きびきびとした運筆、行末のピンと撥ねるのが特徴、明るく品格のある作品にしました。お見事です。

◎かな研究部総評

全体的によく書かれていました。現代の仮名学習の好手本になっているだけあり、明るく素直に書いた作品が多くあり、とてもうれしいです。

**かな研究部 特選 堀切 幸雲**

う 千京も 如N千紅紅竜梵彩幕千五奥千苑前竜小玉A玉石高上竜大  
大る”葉橋く 月H葉苑瑠泉 張葉葉田葉書橋泉汀松I松習井泉泉雲  
葉橋秀 石飯飯足東青 金川茂須後三岸林村都小松小春浅永小藤橋松樺濱高堀  
橋高田立木 作 田子田谷木田藤宅田 田丸林重野山川瀬川村本丸田田橋切  
ひ ひ 50 譲溫愛真香良白東玉笑 純翠加勝な喜色昌景紅愛和陽雅幸  
さ 幸光万花啓 み 城子華蘭舟泉揚子華華り風景美江美汀香子麗石子一泉雲  
生彩琇子 曙

湘正英八 春澄稻英三大翠館艸蒼調N 大木四高竹大千こ安<sup>ノ</sup> 大澄玄筑上声清高昭石澄前英久青た秀澄和硯N 誠八大正洞松高南華峰街<sup>ノ</sup> 汀春毛峰鷹阪<sup>ノ</sup> 亥<sup>ノ</sup> 亥<sup>ノ</sup> 玄陽布<sup>ノ</sup> H 雲露<sup>ノ</sup> 公嶮<sup>ノ</sup> 局雲<sup>ノ</sup> 華<sup>ノ</sup> 波<sup>ノ</sup> 阪春宮桂泉香月真微習春櫻<sup>ノ</sup> 嶺<sup>ノ</sup> 華<sup>ノ</sup> 葵<sup>ノ</sup> か明春平水H 和戸雲華書村嶺<sup>ノ</sup>

佐佐佐佐佐齋斎後近小小込小小黒木北河河神加小小押小尾大大遠江梅宇内字確上岩岩岩井伊伊市市磯石安阿青藤藤藤々々々藤藤藤藤藤山森山林泉柳江原村岡合谷藤野野山川形西島藤田山野田井原剣田田崎野上藤藤川川貝橋橋久木木木木由ゆ美智寺元澤江詠麻桂町淳和翠美早祥喜閑笙か恵雅江竹幸尚欣星と雲翠久萩純輝紅一飲華茂久華皓春 岳祥泉春洋玉英紫良順紫清知楊隆理子美善華子子季子苗子萩密送り子子子葉種子子扇敬剛陽差光子峯霞善也季夫子良華弘峰菊溪燈子季一郎佐子泉耀子風華子

芳青も竹如も大英調澄 五白皓正山京稻秀澄有東翠麗大詢調遊泉秀一艸倉帝千秀春泉秀翠大玉佑英春や青竹東竜土光う八  
選蘭峰く美月く雲峰布春 葉露映華王橘毛水春秋向吟澤阪扇布雲会畠葦玄吉塚葉水汀会畠柳阪松希峰汀ま峰扇小泉氣昭る生  
外17渡吉吉横八森森村武宮丸真松松前堀細福深浜畠長長橋野野西永長中中中中中橡戸富渡辻筑近玉田田田辰田高開鈴杉嶋溢篠  
名達種山木田下山藤内尾庭村田岡島川村島堀本山谷谷本村沢澤田島村澤江尾村澤子 井池岡中中中中本玉橋井 木田 谷田  
氏名略タ 夕登和シズエ登理 美有理 惠美子